

「なくてはならない会社」を 目指して

プリマハム株式会社
代表取締役社長

松井 鉄也



**CSRを果たすことで「なくてはならない会社」と
なっていきたいと思っています。**

2009年6月、前社長貴納順二より引き継ぎ代表取締役社長に就任しました。

当社は「正直で基本に忠実」、「商品と品質はプリマの命」、「絶えざる革新でお客さまに貢献」を経営理念として掲げ、これを「プリマの原点」と称しています。当社にとっての社会的責任（CSR）は、この「プリマの原点」を旨として常に社会に配慮した企業活動を行い、お客さまの視点にたった商品を提供し、各ステークホルダーの皆様にとって「なくてはならない会社」として認めていただくことだと私は考えています。お客さま、さらには社会のために「この会社ならぜひあってほしい。」そういつただける会社になりたいと思っています。

**お客さまが求められる商品をお届けすることが、
CSRの第一歩だと考えます。**

「なくてはならない会社」において当社が第一に考え果たしていかなければならない使命は、「安心・安全・おいしく・健康的な商品」を安定的にお客さまへ提供することです。

そのため、かねてより国内生産拠点では、HACCP、ISO

22000に基づく商品の品質・安全管理を行ってきましたが、2009年度からは新たにAIB（American Institute of Baking：米国製パン研究所）が開発した国際検査統合基準に基づく徹底した衛生管理を導入し、さらなる品質の維持・向上に努めています。もちろん海外の生産拠点や調達先でも日本と同レベルの品質管理を行えるよう、従業員教育の徹底をはじめ、新鮮で安心・安全な商品が提供できる体制を整備しています。

おいしさや健康に良いことも商品の品質のひとつです。当社では今まで以上にお客さまニーズに敏感に反応するよう心がけ、この2010年夏から、食べやすさや素材にこだわった商品や健康志向のメニュー提案付きパッケージ商品などを展開しています。そのほか、こだわりの原料を使った惣菜なども企画しお取引先様へ積極的に提案するなど、一人でも多くのお客さまへ当社のおいしさをお届けできるよう、日々、商品開発を進めています。

お客さまニーズというのは、明確に声になって私たちに届いてこないこともたくさんあるのだらうと思います。こうしたお客さまの隠れたニーズをいかに汲みとり、理解し、応えていけるか。それがCSRを果たし、「なくてはならない会社」になっていくことにつながるのではないのでしょうか。

**食料と密接にかかわる環境、経済、社会課題の解決に向けて、
コツコツと取り組んでいます。**

食料の生産は飼料や肥料、水など多くの資源が必要となり、気候変動などの自然環境の影響を受けやすいものです。食料生産のグローバルなサプライチェーンにおいては関係各国の気候や環境のみならず、経済や社会にもさまざまな影響を与え、受けることが想定されます。

こうしたことから、当社では地球温暖化に起因する気候変動の防止に貢献するべく「革新的ものづくり」を通じて省エネルギー・省資源化、ひいては生産効率の向上や品質向上にも通じる取り組みを継続的に続けてきました。その結果、2009年度のCO₂排出量については前年比-4.8%を実現しました。

また、海外生産拠点では、現地従業員の雇用や現地での原料調達などを通じて、地域の経済、社会に貢献できるようさまざまな配慮をしています。

サプライチェーンマネジメントにおいては、品質管理と同様に環境や人権・労働分野にも力を入れて取り組んでいきたいと思っています。

一方、国内では食料自給率の向上が課題としてあげられています。当社では日本の食料自給率の向上のための国民運動



“FOOD ACTION NIPPON”へ参加し、安心・安全の観点からも国産原材料商品の展開を積極的に行っているほか、グループ会社の太平洋ブリーディングによる養豚事業の拡大などに取り組んでいます。

また、日本において近年、昔に比べると希薄になっているように感じる、日々の食をめぐる場面での家族の絆やしつけ、教育などについても、食にかかわるメーカーとしてもっといろいろな形でかかわり貢献していきたいと思っています。

**さらなる飛躍を、
そしてプリマハムの貢献の輪を広げていきたい。**

当社は来年で創立80周年を迎えます。厳しい経営再建時期を乗り越え、低迷する経済環境ながら今こうして8期連続黒字を実現できるようになりましたのも、お客さまや株主様をはじめとする関係者各位のご理解、ご協力の賜物と感謝しています。

私は今後、当社の経営をさらなる成長軌道に乗せ、将来的には売上・経常利益規模を今の2倍程度に伸ばし、自己資本比率も相応に充実させたいと考えています。そのためには、まず国内においてプリマハムのブランド・商品をもっと多くのお客さまに認めていただくこと、さらに日本の品質・技術力をいかして、海外マーケットニーズにもお応えできるようにしていくことが必要でしょう。

私は支店や工場を訪れる際にいつも、「利益とCSRは車の両輪。どちらが欠けても事業はうまくいかんぞ。」と歩いていきます。規模が拡大すれば、社会の持続可能性へ貢献できる幅がもっと広げられる、ぜひそうしたいと思っています。だからこそ、CSRを考慮した企業活動、商品開発を進め、ステークホルダーの皆様にとって「なくてはならない会社」と認めてもらうべく努力を続け、飛躍していきたいと思います。

『社会環境報告書2010』をお読みいただき、頂戴しますご意見を私どもの将来の糧とし、透明性のある誠実な企業経営を進めてまいり所存です。どうぞ皆さまからの忌憚のないご意見とご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。